

平成23年度教育委員会事務点検評価(平成22年度実施事務事業)評価表

1 事務事業の基本事項

		整理番号	10
事務事業の名称	博物館企画展事業	担当部課	教育委員会 生涯学習部 博物館
		電話番号	04 - 2955 - 3804
実施期間	平成 3 年度 ~		
総合振興計画における位置づけ	5章 人を育み文化を創造するまちをめざして	実施計画(H22~24)事業名	個別計画等の名称
	1節 生涯学習の振興		
	1項 生涯学習の推進		
	2目 生涯学習の機会や場の拡充		
実施根拠	博物館法及び関係法令並びに狭山市立博物館条例及び狭山市立博物館管理規則		
事業区分	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 法定受託事務+自治事務		
事業開始の背景等	通史的かつ固定的な常設展示だけでは、博物館が陳腐化し、入館者は減少してしまう。そのため、創意工夫を凝らした企画展を開催し、入館者の増を図っていく必要がある。		

2 事務事業の目的・内容

目的	入館者の増を図るため、様々な角度からさらに「郷土狭山」を知ってもらうための展示、子ども達を中心に科学技術の素晴らしさを知ってもらうための「ものづくり」や科学分野に関する展示、他の博物館では見られない斬新な展示など創意工夫を凝らした企画展を開催する。		
対象	一般		
活動内容	企画展は、年3回実施している。平成22年度は、子どもや親子で楽しめる「音のなるおもちゃ展」や「博物館20年のあゆみ展」、さらに文明開化時に製作された掛け時計を紹介した「ポンポン時計展」の企画展を開催した。		
(下段)前年度の方向性に対する改善活動	(前年度方向性評価)	博物館協議会からの提言に基づく「狭山らしさの創造」に基軸をおいた展示会を開催することができた。	
	内容の見直し		
環境配慮			
実施形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担 <input type="checkbox"/> その他( )		

3 事務事業の実施状況と成果

区分	指標名	区分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	目標値の根拠・考え方
(実施状況指標)	企画展開催日数	目標値	日	186	178	181	169	過去5年間の実績をもとに設定
		実績値		183	141	147		
		達成率		98.4%	79.2%	81.2%		
	企画展開催回数	目標値	回	3	3	3	3	
		実績値		3	3	3		
		達成率		100.0%	100.0%	100.0%		
(成果指標)	企画展開催時の入館者数	目標値	人	37,283	37,169	34,958	33,336	過去5年間の実績をもとに設定
		実績値		29,818	41,348	18,203		
		達成率		80.0%	111.2%	52.1%		
	目標値							
	実績値							
	達成率							

4 事業費

		区分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	
経費	直接費	予算額	千円	4,000	4,000	3,000	3,435	
		決算額	千円	3,877	3,885	3,247		
		財源内訳	国県支出金	千円				
			その他特定財源	千円				
	一般財源		千円	3,877	3,885	3,247		
	人件費	従事職員数	人	1.09	1.09	1.24		
		人件費(従事職員数×平均給与)	千円	10,000	10,023	11,149		
		事業費計(直接費決算額+人件費)	千円	13,877	13,908	14,396		
効率性指標	指標名	企画展開催時入館者数	人	29,818	41,348	18,203	※1単位当たりの経費	
	単位コスト	入館者1人当たりの経費	円	465	336	790		

5 事務事業の評価

◆第一次評価(担当課による評価)

項目	評価の視点	評価	評価理由
個別評価	必要性	4 前年度 4	常設展示だけでは入館者が減少していく。創意工夫を凝らした企画展を開催し、常に新しい情報を発信することにより、入館者の増加が図られるとともに、市民に新たな学習機会を提供することができる。
	有効性	3 前年度 4	入館者は前年より減少したものの、「ものづくり」の楽しさや素晴らしさを知ってもらう展示会、博物館開館以来の取組みや実績に係る展示会、普段見ることのない貴重な明治時代の時計の展示会を開催することにより、入館者に新たな情報を提供し、市民サービスの向上に資することができた。
	効率性	4 前年度 4	展示委託業務の精査、ボランティアの活用、関連事業の実費負担、執行体制の効率化により、コスト削減が図られた。
<5段階評価> 5:極めて高い 4:高い 3:普通 2:低い 1:かなり低い			
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了 博物館協議会からの提言である「狭山らしさの創造」を基本理念として企画に取り組み、展示会を年3回継続的に実施し、入館者数の増を図っていく。また、研究活動なども地道に進め、市民に還元していく。		

6 その他(学識経験者の意見等)

入館者のリピーターを増やす努力が行われている。魅力ある博物館事業を展開するためにも、企画展示はたいへん重要と思われる。様々な努力をしてきているが、ボランティアの導入と積極的な活動を期待したい。学習成果の評価と活用を結びつけた企画展示が求められるのではないだろうか。  
 また、調査研究事業の地域社会への還元は、施設間連携等を生み出すような事業展開も考えられるのではないかと。子ども向けの企画展示のいっそうの充実を望みたい。No. 9で記したように、狭山市の地域課題に子どもが気づくことが、この市の将来を左右する。